

令和 4 年 7 月 6 日現在

機関番号：32680

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K12713

研究課題名（和文）市場から見る再規制国家の形成：官僚のカルテル・マネジメントの実証研究

研究課題名（英文）Market Dynamism resulted in the Emerging of the Re-regulatory State

研究代表者

深谷 健（FUKAYA, TAKESHI）

武蔵野大学・法学部・教授

研究者番号：50737294

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究「市場から見る再規制国家の形成」では、これまで、（1）市場の自律化において、技術革新に伴う競争進展とあわせて、市場の失敗（独占）・格差拡大・選択の固定化といった副作用的な市場変化が生じていること、（2）中央政府の再規制の量的増加傾向・質的強化・手法の多様化といった知見のみならず、（3）境界領域の拡大に伴うコスト拡大や、行政・官民共同・民間（自主）規制といった3つの層いづれにおいても「規制形成が増加している」ことを確認した。成果公表についても、順次進めていく予定である。なお、本研究は、引き続き、「基盤研究C」と「国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（A））」に発展している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

規制の再構築メカニズムは、キャプチャーなど政治的要因で説明されることが多いが、デジタル規制等の新しい市場課題に対応した規制や詳細化された規制の在り方は、市場構造の変化を前提としてこそ、はじめてその理解が可能となる。また、その再構築を担う政府内部の要因も考慮に値するであろう。本研究は、単純な統制機能を越えた規制現象に対して、多角的にその実証的根拠を提示する。そしてこのことは、規制制度設計に向けても示唆を持つ。経済権力を持つプラットフォームへの規制やロビイング規制など、市場領域に対する規制の再構築は、広く公共ガバナンスの現代的課題である。その基礎情報を提供することが本研究の社会的意義となる。

研究成果の概要（英文）：This project tried to show not only (1) that in the autonomous market dynamism, along with the development of competition associated with technological innovation, market side effects such as market failure (monopoly), widening inequality, and fixed choice have occurred, and (2) that the tendency of government re-regulation to increase quantitatively, strengthen qualitatively, and diversify in method, (3) the expansion of costs associated with the expansion of boundary regulatory areas and the "increase in regulatory formation" at all three levels of government, public-private joint, and private-private (voluntary) regulation. The publication of the results of this study will be made public in due course. This research continues to be supported by "Grant-in-Aid for Scientific Research (C)" and Fund for the Promotion of Joint International Research (Fostering Joint International Research (A))".

研究分野：行政学

キーワード：再規制 市場の失敗 格差の拡大 選択の固定化 境界領域規制

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 1980年以降、日本社会においても、いわゆる「小さな政府」を志向する改革が進められ、行政活動の在り方が大きく変化してきた。NPM (New Public Management) や規制改革、行政改革といった各種の変化への試みは、そのプロセスの試行錯誤の中で、行政それ自体の形を変え、また、その活動領域を縮小させてきた。

(2) 他方、興味深いことに、その改革の過程は、行政活動をより複雑にするのみならず、その領域を拡大させる側面を持つものでもあった。本研究は、とくに規制領域を素材として、こうした逆説的な拡大現象がなぜ生じてしまうのかを解明することを狙いとして着手された。

2. 研究の目的

(1) 先進諸国における規制ガバナンスをめぐる課題は、ルール形成をめぐる民主的正当性の確保・参加者の拡大による責任分散・官民関係の再定義などとともに(Ex. Bach et al., 2016; Busuioac, 2016)、増加する規制数の行政側の管理コストをいかに低廉化させることができるかにある。たとえば、規制量の増加は、理論的には、政府の失敗と規制の機能不全とともに、政府内の整合性の確保、政治的キャプチャーの温床化、官僚制化の促進や避難回避、資源の浪費に繋がるリスクを拡大させる。そしてこの問題は、ルール形成が既存の枠を越えた新しい境界領域に及ぶ場合、不確実性が伴うケースが高まることにより一層顕著なものとなる。

(2) こうした関心から、本研究では、再規制過程を捉える上で独自に設定する2つのレベルの視点：() 経済市場の自律化と、() 規制を所管する行政活動の分析の組み合わせを通じて、市場における参加者の活動領域の拡大とその行動がもたらす「政策との乖離」が、いかに政府の規制量の増加と質的多様化に繋がっているかを示そうとしてきた。

とくに、その公的領域の拡大を規定したと考えられる市場問題に焦点と当て、現代日本における経済市場の自律化に伴う規制領域の拡大を実証的に分析することを狙いとした研究プロジェクトである。

3. 研究の方法

本研究は、以上の研究目的に即した形で、以下のアプローチを用いて実施した。

(1) 市場領域の自律化に関する分析

まず、市場領域の自律化に接近するために、「市場の失敗」に関するミクロ経済理論をもとに、これがどのような領域で生じてきているのかについて、その実態把握を試みた。ここでは、規制とレントをはじめとするデータ収集を基礎として、その定量的分析を進めてきた。また、実験的手法を用いた市場側の主体による選択の固定化についての分析・検討を進めてきた。

(2) 規制領域の拡大に関する分析

あわせて、行政の活動領域にも焦点をあて、規制の再構築領域の特定とその特質について、各種資料・データに基づき特定しようと試みてきた。ここでは、データ分析とあわせて政策領域横断的比較分析をもとに、行政学の知見と現在の行政現象を照らし合わせつつ、その理解に資する分析フレームを構築している。

4. 研究成果

(1) これまでの研究成果

上記の目的と研究手法とともに、経済市場の自律化の問題については、この間、海外学会(MPSA や EGPA) での研究報告を行うこととあわせて、「規制とレントの実態把握」(『武蔵野法学』11号、2019年)として研究論文を公表した。

(2) 今後の展開

他方、行政側からの規制領域拡大メカニズムについては、引き続きの研究を必要としている。これまでの政府側に生じている課題については、EBPM (Evidence Based Policy Making) や規制ガバナンス手法に関する実証分析を通じてその検討を進めてきた。また、実験手法を用いた政策効果の分析についても、関連した共同研究を進めているが、いずれも引き続きの研究を必要としている。

なお、本研究は、ここでの問題関心を踏まえて、「基盤研究C: 現代日本の官僚制における「リ

ベラリズムの鉄則」仮説の実証分析」と「国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))」:「小さな政府」における規制領域拡大メカニズムに関する国際比較分析」に発展的に引継がれた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 深谷 健	4. 巻 14
2. 論文標題 OECD諸国における日本の規制ガバナンスの位置－Government at a Glance 2019のレビューを通じて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武蔵野法学	6. 最初と最後の頁 65-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 三村憲弘・深谷 健	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 選挙啓発のフィールド実験 新しい有権者を規定する社会的文脈	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 341-367
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.7218/nenpouseijigaku.71.1_341	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 深谷 健	4. 巻 52
2. 論文標題 EBPMへの道：その制度化と政策形成メカニズムにおける諸問題の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊評価クォーターリー	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 深谷 健	4. 巻 11
2. 論文標題 規制とレントの実態把握－政策改革のダイナミクスを捉えるために－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武蔵野法学	6. 最初と最後の頁 189-213
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Takeshi Fukaya
2. 発表標題 Market Governance for Efficiency or Burden?: Understanding the Increasing Administrative Inefficiency in Japan
3. 学会等名 78th Annual Meeting of the Midwest Political Science Association, Policy Implementation and Public Administration Section (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Takeshi Fukaya
2. 発表標題 Strategic Regulatory Management for Market Efficiency but Resulted in Administrative Inefficiency: Lessons from the Market Governance in Japan
3. 学会等名 EGPA: 2019 Annual Conference of the European Group for Public Administration (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Fukaya
2. 発表標題 Is Evidence Contributing to Public Accountability?: Evidence from Japan
3. 学会等名 OECD Expert Meeting: Ensuring the good Governance of evidence-What Standards of evidence are needed for policy design, implementation and evaluation? (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Fukaya
2. 発表標題 When Cartels Become Unstable?: The Logic of Collective Action and Declining Regulatory Rents in Japan
3. 学会等名 76th Annual Meeting of the Midwest Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三村憲弘・深谷 健
2. 発表標題 「模擬選挙」実験で検証する投票参加のメカニズム - 大学と行政との連携プロジェクトを通じて-
3. 学会等名 2018年度日本政治学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

深谷 健 (FUKAYA TAKESHI) - マイポータル - researchmap
<https://researchmap.jp/takeshifukaya1979/>
 深谷 健 Takeshi Fukaya's HP - Google Sites
<https://sites.google.com/site/fukayatakeshihomepage/home?authuser=0>

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関